

## 『「残り2年」の生き方、考え方』

本日は吉岡博忠ガバナーの公式訪問例会です。ガバナーのお話を楽しみにされている会員が多いことと思いますので迅速に進めたいと思います。

今年度前の PETS において地区ポリオプラス小委員会メンバーでもある神戸東 RC の関本剛様による「がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」の生き方、考え方」と題したご講演を拝聴いたしましたので、少しご紹介をさせていただきます。

関本様は昭和 51 年生まれの現在 45 歳の医師であります。ご専門は消化器肝臓内科、緩和ケア内科医であり、病院勤務を経られて、現在神戸市で在宅ホスピス「関本クリニック」院長としてご活躍されています。

まだ若くバリバリの現役医師である関本先生は、終末期の患者様のケアを本来のお仕事とされていますが、2019 年、咳症状が続くため健康診断のつもりで胸部 CT 検査を受けられたところ、肺がんが発見され、脳転移も伴っていたそうです。

いつまで生きられるかわからない、いつまで自分が自分としていられるかわからない、との大きな不安とショックのあまり奥様と泣き崩れたとおっしゃっていますが、その衝撃たるや想像に余りあります。

しかし、その後ご家族、職場スタッフ、友人そしてロータリアンの支えもあって、日々を大切に、前向きに過ごされているとお話をお聴きしました。詳細は RI2680 地区のホームページにも関本先生の卓話としてアップされています。また「がんになった緩和ケア医が語る「残り2年の生き方、考え方」という著書も宝島社から出版されています。その中で紹介されている多くの先人の言葉は強く心に響きますが、何より関本先生の強さ、優しさに深く感銘を受けました。ぜひ皆様にご一読を勧めようと、この機会に紹介させていただきました。

